

デジタルハリウッド大学

2026 年度 一般選抜 B 方式

国語 [60 分]

【 注 意 事 項 】

1. 試験監督の指示があるまでは、問題冊子は開かないこと。
2. 試験監督から指示があったら、解答用紙に氏名・受験番号を正確に記入し、受験番号マーク欄にも受験番号を正確にマークすること。
3. 試験開始の合図後、この問題冊子を開き、36 ページ(白紙ページ含む)揃っているか確認すること。
4. 乱丁、落丁、印刷不鮮明などがある場合は、手を挙げて試験監督に知らせること。
5. 解答は、すべて別紙の解答用紙の解答欄にマークすること。
6. 試験開始から終了までの間は、試験教室から退出できません。
7. 不正行為を行った場合は、その時点で受験の中止と退室を指示され、同日受験したすべての科目の成績が無効となる。
8. 解答用紙は試験終了後、回収される。問題冊子は持ち帰っても良い。

これは2ページ目です。
次のページから問題が始まります。

第一問 次の小説の一節を読んで、後の設問に答えなさい。

薫子^{かおるこ}は、法務局で働く四十一歳の女性である。十二歳年下の弟の春彦^{はるひこ}は、若くして突然死したが、遺言書で遺産の受遺者、相続人として元恋人の小野寺^{おのでら}せつなを指定していた。次の場面は、薫子とせつなが初めて会った時のことである。

死んだ弟の元恋人について、薫子は詳しいことは知らない。知っているのは、春彦と生年月日が同じということ、料理関係の仕事をしていることくらいだ。

春彦が「父さんと母さんに付き合ってる人を紹介したいから薫子さんも来てくれる？」と連絡してきたのは、体が溶けるほど暑い去年の七月だった。突然のことにびっくりしつつも、もちろんよと答えた薫子は、夫の公隆^{きみたか}と一緒に南陽台の実家を訪れた。

「お料理のお仕事をなさってるって、どちらのお店で働いていらっしゃるの？」

せつなを質問攻めにしたのは母だった。父と結婚して退職するまでは地方局のアナウンサーだった母は、六十代半ばの年齢が信じられないほど若々しいが、あの日、せつなに向ける笑顔は華やかを通りこして凄み^{すご}すら漂っていた。

「店では働いていません。依頼をもらったお宅に行つて、そこでユーザーさんの要望に応じて料理を作ります」

せつなの返事を聞いた母は眉間に線を刻み、「怪訝^{けげん}」の見本のような表情を浮かべた。

「なんだか家政婦みたいね」

「細かい違いはありますが、やっていることは近いと思います」

①母は眉間のしわを溪谷のように深くし、テーブルの隣に座る父に目配せをした。

こちらは年相応の贅肉ぜいにくがついて貫禄かんろくを漂わせている父は、客人の前でそんな顔をするものじゃないと目顔で母をなだめ、せつなには寛大な笑顔を向けた。

「今の若い人たちは色んな働き方をしているしね、料理ができるというのは素敵なことだと思いますよ。春彦はずっと妻が世話を焼いてきて家事はからきしですから、家のことがちゃんとできる人が面倒を見てくれると安心だ」

「俺も洗濯と掃除くらいはできるよ」

「でもそういうのは、女の人のほうがやっぱりうまいからな」

「性別は関係ないと思いますよ。うまくやってる女性は、女だからできるわけじゃなく、試行錯誤して考察して実践をくり返すうちにうまくできるようになっただけです。男性も同じことをすれば、同じようにできるはずですよ」

これをもう少し友好的に言っていたら印象は違ったのだろうが、小野寺せつなは眼光の鋭さが際立つ真顔だったし、口調も淡々としていた。四十以上も歳の離れた父を前にして一切ひるんでいないところが不敵で、いっそふてぶてしくもある。②父の顔から笑みが消え、薫子はひやりとした。父は定年退職するまでは会社で人事部長を務めていた人で、女性の登用や産休育休からの復帰を支援してきた。だから働く女性に理解は示すが、しかし、わきまえない女は嫌いなのだ。

「お義父さん、幸田露伴こうだろはんがお好きでしたよね。露伴も家事に通じていたそうですよ」

爽やかな弁舌で割って入ったのは、薫子の隣に座っていた公隆だ。

「露伴は先妻を亡くして再婚していますが、二番目の妻はあまり家事が得意ではなかったようなんです。それで露伴が娘の幸田文あやに家事を教えることになったんですが、露伴ははたきを掛けるのがとても上手うまかったと幸田文は書き残しているんです。文豪でも家事をするのかと驚きましたね」

「うん、露伴は実に緻密に人を描くからね。日々の生活をよく知っているからこそ、できることなんだろうね」

公隆を気に入っている父は **X** 笑顔をとり戻し、せつなを見やった。

「小野寺さんの手料理を食べてみたい。春彦にも作ってやってるんだろう？」

「そうね。私もプロの方のお料理、ぜひ食べてみたいわ」

父に続いて強力な笑顔を貼りつけた母までが曇みかけるので、^⑤ 薫子は胃のあたりが重くなった。小野寺せつなの態度は、恋人の両親に挨拶にきた立場としてどうかとは薫子も思う。だが、それを生業^{なりわい}にしているプロに、息子の恋人だからといって無償でその技術を提供させようというのはどうか。

「お母さん、お寿司^{すし}を頼んだって言ってたでしょう？ そろそろ届くと思うし、ほかに料理なんていらないじゃない」

「おつまみ程度でいいのよ。お父さんも公隆さんも飲むでしょうから、何かお酒に合うものをお願いできる？ 小野寺さん」

「かまいませんが、三千円いただきますよ」

この時の父と母の顔について、のちに春彦は「^⑥ 鳩^{はと}が豆鉄砲食らうってああいう顔のことなんだね」とおかしそうに語った。

「え、何のこと？ 三千円？」

「それが私の時給なので。本当は交通費もいただくんですけど、ご挨拶にうかがった身ですから、今回はおまけしておきます」

父も母も絶句していたが、母のほうが立ち直りは早かった。 **Y** 笑顔を忘れ、噛みつかんばかりの形相になった。

「あなた、私たちからお金を取る気なの？」

「プロの料理が食べたいと、今お母さんがおっしゃったのでは」

「言ったわよ。でもそれとお金がどう関係あるの？ 普通はこういう時にお金を取ろうなんて考える人間はいないわよ。あなた、ちよっ

とおかしいんじゃないの？」

「どのへんがおかしいんでしょうか。対価をもらって、それに見合う仕事をするのがプロだと私は思いますが」

「そういうことじゃなくて……！ あなたは私たちに春彦と付き合っていることを認めてもらいに来たんでしょう。だったら減らず口を叩いてないで、少しは私たちに気に入られようとするべきじゃない！ 本当ならこちらから頼む前にあなたが自分で動かなきゃいけないのよ、それが常識ってものでしょう！」

「それなら、^④私とお母さんの常識は違いますね。私はそもそも、プロの料理人を休日にタダ働きさせようとは思わないので」

平然と言つてのけた小野寺せつなは、作法の行き届いた手つきで母が出したお茶を飲み、「玉露ですね、おいしい」と何事もなかったかのように感想を述べた。父と母は絶句し、驚愕を通りこして虚無の表情になっていた。薫子も途方に暮れていたが、職業柄口をはさむべき時とそうではない時を読むことに長けている公隆は、丁寧^注に黒文字で切り分けた羊羹^{ようかん}を口に運んでいた。明るい笑い声をあげたのは春彦だ。

「ね、かつこいいでしょ？」

目尻に笑いじわを寄せた弟は、薫子と公隆に向かって小首を傾^{かし}げてみせた。かつこいいって、あんたね。あきれ返る薫子の隣で、公隆は無言でにつこりと笑い、義両親にも義弟にも無難な対応をしていた。

直後に玄関のベルが鳴り、母が頼んだ六人前の寿司が届いたのは幸いだった。

薫子は「さあ食べましょ！ 乾いたお寿司ほど悲しいものはないものね！」と精いっぱい明るい笑顔で言い、母が準備していたお吸い物の鍋をコンロにかけた。弟とその恋人も台所にやってきて、春彦は食器棚から醬油皿^{しょうゆ}と箸を出し、小野寺せつなはお碗^{わん}を出しながら「ねえ」と春彦に声をかけた。

「醤油皿、ひとり二皿ずつ出して。そこに高級お醤油コレクションがあるから、淡口醤油うすくちと濃口醤油こいんぐち、両方持つてこう。鯛たいとかの白身の魚は淡口醤油がいいし、まぐろなんかの赤身の魚は濃口か溜まり醤油たまりがいいの」

「へー、そんな風に使い分けするの？ 醤油ってどれでも同じだと思ってた」

「全然違う。醤油は大豆が作る芸術品だよ」

仲いいわね、と思いながらジュンサイのお吸い物の温まり具合を見ていると、背後に気配を感じた。⑤息を詰めながらふり返ると、アイメイクのせいで目力が際立ちすぎている小野寺せつな——この時は整備士のような恰好かっこうではなくシンプルな黒のワンピースを着ていた——がいて、じっとお吸い物に視線を注いでいた。

「みようがつてありますか？ 刻んで入れたら合うと思うんですけど」

「……野菜室にあるかも。見ていただけ？」

あの日、交わした言葉はこれだけだ。

まさか九カ月後、弟の遺書をめぐって再び彼女と会うことになるとは夢にも思っていなかった。

（阿部暁子『カフネ』より。出題の都合上、本文中に一部変更した箇所がある）

（注）黒文字——香りのよいクスノキ科の落葉低木。ここではクロモジの木で作った和菓子用の爪楊枝つまようじのこと。

問 1 傍線部①の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

① ふてぶてしく

- ア 生意気そうで
イ たくましく
ウ おうへいで
エ 図太く
オ 不機嫌で

問 2 傍線部②の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

② 鳩が豆鉄砲食らう

- ア 気が動転する
イ あっけにとられる
ウ 急に不愉快になる
エ あわてふためく
オ 嫌悪感を隠さない

問3 傍線部㉔の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

㉔ 減らず口を叩いてないで

- | | |
|---|-------------------|
| ア | 生意気な態度を取らないで |
| イ | 無駄なおしやべりをしないで |
| ウ | 憎まれるような口のきき方をしないで |
| エ | 冗談ばかり言っていないで |
| オ | 非常識なことを言わないで |

問 4 傍線部①「母は眉間のしわを溪谷のように深くし、テーブルの隣に座る父に目配せをした。」とあるが、この時の母の様子の説明として

適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア せつなが息子の嫁としてふさわしい人物とは思えないと感じ、夫も同様に感じたであろうことを確信して目の動きで同意を求めている。
- イ 一般的な飲食店勤務を想像していたところ、せつなの説明を聞き、家政婦という職業に偏見を持つ母は、せつなに嫌悪感を覚えている。
- ウ せつなの労働形態がよく理解できずスッキリしないので、助け舟を出してくれることを期待して、会話に参加するよう夫に促している。
- エ 息子が連れてきた女性の素性を探ろうと質問攻めに行っているうちに、仕事の内容に違和感を覚え、疑わしい人物だと思い始めている。
- オ せつなを警戒する母は、笑顔で接しながらせつなのあら探しをしており、仕事の内容を詳しく説明しない点を怪しいと思っている。

問5 傍線部②「父の顔から笑みが消え」とあるが、この時の父の様子の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア 人事部長を務め、働く女性に理解があると自負していたのに、そんな自分の寛大な発言を否定するせつなの態度にいらだっている。
- イ 家事は女性がやるものという価値観から脱していないことをせつなに指摘されたことで体面を傷つけられ、怒りを覚えている。
- ウ 真正面から異論を唱えるせつなの態度から、自分に対する敬意がないことを察して、温和な態度を保つことができなくなっている。
- エ 交際相手の父親の顔を立てるところか、ずけずけと反論するせつなに、礼儀知らずで生意気な女という印象を抱き、不快になっている。
- オ 言っていることは正論でも、年長者の誤りをただすようなせつなの態度が気に障ったことで冷静さを失い、敵意を露わ^{あらわ}にしている。

問 6 空欄

X

・

Y

に入る語句の組み合わせとして適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア	X	気さくな	Y	柔和な
イ	X	大胆な	Y	偽りの
ウ	X	鷹揚 おうよう な	Y	鉄壁の
エ	X	尊大な	Y	満面の
オ	X	無邪気な	Y	ぶしつけな

問7 傍線部③「薫子は胃のあたりが重くなった」とあるが、薫子がそのように感じたのはなぜか。その説明として適当なものを、ア～オの

中から選んで答えなさい。

- ア 交際相手の両親に挨拶に来ているせつなの態度はかわいげがなく、父や母とうまくいきそうもないと、絶望的な気持ちになったから。
- イ せつなが手料理をふるまってくれることを当然だと主張する父と母の態度から、せつなへの悪意が生まれたことを感じ取ったから。
- ウ 交際相手の実家まで挨拶に来た人を料理人扱いしたうえ、サービスの提供を当然だと言う父と母のあつかましさに嫌気がさしたから。
- エ プロの仕事はどういうものかを考えず、思いを口にした父と母の無遠慮な態度は、せつなに対して失礼で非常識だと考えたから。
- オ 顔合わせの席が気まずい空気になりハラハラしていたところへ、父母の要求にせつなが気分を害したことで厄介になったと感じたから。

問 8 傍線部④「私とお母さんの常識は違いますね」とあるが、この場面でのやりとりについて、二人はそれぞれのように考えているのか。

その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 母は、家族という間柄での金銭的なやりとりは無料であるとする社会規範を何よりも重要だと考えているのに対して、せつなは、プロによるサービスや商品の提供は報酬を伴うものという市場原理を遵守するべきだと考えている。

イ 母は、自分の立場をわきまえ、目上の人の意向をくんで、その意に沿うように行動するのが当然だと考えているのに対して、せつなは、どのような間柄であろうとも、プロに仕事を頼む以上は相手をプロとして処遇するべきだと考えている。

ウ 母は、恋人の家族に気に入られるためには無償で労力の貢献をすることは当然だとする強い家族意識を持っているのに対して、せつなは、プロの技術は無償で搾取することは非常に問題だと憤慨するような、高い職業意識を持っている。

エ 母は、家庭内の手伝いを頼んだだけで対価を要求されるのはおかしいという、自分の感覚を優先する考えであるのに対して、せつなは、家族間の馴れ合いなより、自分がプロであるというプライドを優先し、それを譲る気はないという考えである。

オ 母は、せつなが自分たちへ向ける無礼な振る舞いを苦々しく思う気持ちを持っているのに対して、せつなは、プロの料理人を休日にタダ働きさせることの理不尽さに全く気付いていない父母に強い拒否感を持っている。

問 9 傍線部⑤「息を詰めながらふり返ると」とあるが、この時の薫子の様子の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 背後にいろのがせつなであると察して、料理に精通しているせつなから、目の前のお吸い物に関する容赦ない言葉が飛んでくるにちがいないと悲観して身構えている。

イ せつなのそれまでの言動から、せつなに対して苦手意識を抱いてしまったために、どう対応していいかわからないまま、直接対面することに緊張している。

ウ 背後にいろのはせつなだろうと感じたが、強烈な個性の持ち主が今、自分の背後にやってきた意図をはかりかねておそろおそろ彼女の様子を見ようと思っている。

エ 今しがたまで弟と仲良く食事の準備をしていたせつ나가急にこちらにやってきたので、何か会話をして交流を深めなければならないと心づもりをしている。

オ 醤油に関する弟との会話から、せつなの料理へのこだわりと料理人としての矜持きやうじに触れることができたことで、せつなに話しかけられるのを心待ちにしている。

問10 本文の登場人物についての説明として適当でないものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 「せつな」は、交際相手の両親にも媚_こびることなく自分の考えを堂々と述べ、ひと悶_{もんぢやく}着あつた後でも何事もなかったように平然として
いるなど、確固たる意志を持った人物である。

イ 「薫子」は、状況を冷静に分析し、だれかを積極的に擁護するわけでもなく、だれに対しても平等な評価を下すなど、視点人物にふさわ
しく中立な立場を保つ人物である。

ウ 「父」は、人事部長の経験から働く女性に理解があるものの、家事は女性がやるものという固定観念を持ち、「わきまえない女」を嫌う、
旧来の価値観にとらわれた人物である。

エ 「母」は、華やかを通りこして凄みすら漂う笑顔でせつなを迎えながら、せつなが料理の報酬を求めると険しい表情で噛みつくという、
喜怒哀楽の変化が激しい人物である。

オ 「公隆」は、陰悪な空気になるとそれとなく話題を変え、口をはさむべきではないと判断すれば関わらず、波風が立たないように自然体で
振る舞うといった、如才ない人物である。

第二問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

①アーカイブなるものの概念の定義を整理しようとする試みは、これまでも行われてきた。たとえば^{〔注〕}アーカイブズ学においては、個人や組織の活動に伴って作成あるいは収受し継続的に利用する価値あるものを編成し保存した記録やその保存機関としてのアーカイブズが、規範的なモデルとされてきた。このようなアーカイブ理解においては、何を保存するべきかという価値判断が伴う。一方で、いわゆるデジタルアーカイブの議論においては、複数のファイルをまとめてシステムやネットワーク上で利用できるようにしたもの、広くアーカイブと捉えることが多い。こうした議論では、アクセシビリティの向上や永続性が担保されるべきという規範が強調される。アーカイブなるものの概念を定義しようとする議論に共通する特徴は、アーカイブがなんらかの規範にしたがって編成され構築されるべきものと捉える姿勢であろう。

編成や構築の行為の前提となる規範や制度の正当性については、それ自体を **X** せず検討の対象としうることに指摘されてきた。たとえば、植民地帝国とジェンダー規範の関係を論じるアントワネット・バートンは、アーカイブというものの自体が意図をもって形成されてきたため、それを単純に読んでしまうと植民地主義や帝国主義などのアーカイブを作る側の権力の物語の **Y** になってしまふことを指摘する。またアン・ローラ・ストラーは、アーカイブ資料を^②タンネンに検討することで、植民地主義の言説が持つ権力作用を解説しようとする。彼女たちの議論によって指摘されてきたのは、アーカイブなるものはつねに権力関係のなかで作られ使われるものであり、それに自覚的であるべきだということである。

ここで確認しておきたいのは、アーカイブの意図を議論の前提とすることがつねに可能とは限らないということである。実際のところ、わたしたちの日常生活は、作ろうと意図しないでできてしまった情報の集積が「アーカイブ」として扱われるような事例に満ちてい

る。たとえば、ウィキペディアで使われる画像は、ウィキメディア財団が運営するウィキメディア・コモンズのサイト上で検索や閲覧ができるようになっていいる。これは、アーカイブなのか？「アーカイブ」として利用する人々がいることは確かだろう。しかしそれではこのアーカイブは誰のどのような意図によって作られているといえるのか？ウィキメディア・コモンズの情報の集積は、特定の誰かの意図によって作られたアーカイブとは考えにくい。

ここで、そもそも情報の「集積」とは何を意味するのかということも問うておきたい。^②情報が集積するとはどのような意味なのか？アナログ時代であれば、情報の集積なるものについての想像はしやすかっただろう。本や書類が収蔵庫に積み重なっているようなイメージ。情報の集積としてのアーカイブとはどのように想像されただろう。しかし、ネットワーク化されたデジタル時代の情報環境において、情報は集積するものなのだろうか。すべての情報が潜在的に接続しうる環境において、情報が集積すると述べることにどのような意味があるのだろうか。一方で、歴史的にすべてのテキストが参照関係の網のなかに位置づけられるということも、これまでの文献学的議論において論じられてきたことであつた。そうであれば、「集積」なるもの自体も、情報のメディア効果にすぎないのではないか。言い換えれば、ひとが「集積」を見ようとするから「集積」があるということにすぎないのではないか。そして、その情報の「集積」をわたしたちはさまざまな場面で「アーカイブ」として扱ってしまう。

こうした問いによってわたしたちは何を問うているのか。より具体的に考察するために、デジタル時代におけるアーカイブとアーカイブでないものの境界的な事例について実験的に考えてみよう。境界を引くためには、^③デジタルアーカイブの「要件」を考えてみることができる。デジタルアーカイブの「要件」としては、たとえば信頼性（真正性）、継続性、アクセシビリティ、ネットワーク性、双方向性、^{（注2）}ハイパーテキストチュアリティなどが語られることが多いだろう。

デジタル時代のアーカイブを名乗る有名なものとして、一九九六年に設立されたインターネットアーカイブがある。そのサイトでは、

パブリック・ドメインにある書籍画像、動画、音声、ソフトウェアなどが、検索可能な状態で公開されている。また、ウェブバックマシンと呼ばれるサービスでは、ウェブ上の情報のコピーを保存し、それを検索可能にしている。これは、アーカイブとしての要件を十分に満たしているといえるだろうか。たとえば、書籍の画像につけられたメタデータは正確でないものも多く見られ、書籍の異本どうしの関係も説明されない。また、コンテンツが作られた文脈が記述されていないものも多い。

ところでウェブバックマシンの発想は、コンピュータのコードのバージョン管理と似ている。そうしたサービスとしては、ソフトウェア開発のプラットフォームであるGitHubがある。コードをこのプラットフォームに登録すると、不特定多数のプログラマーと協働でコードのレビューや開発を行うことができる。コードをリアルタイムで協働管理するために、編集の記録が取られていく。こうした編集の記録が取られていく仕組みとしては、ウィキペディアの変更履歴の機能も似たものといえる。こうしたものはアーカイブだろうか？ 履歴を取る意図は、伝統的なアーカイブとは異なるかもしれない。しかし、アーカイブとして利用することを利用者に促しているとは少なくともいえるだろう。利用者は、欲すれば過去の変更履歴に遡って、コードや記事を確認することができる。ウェブ上で「アーカイブ」と言うとき、多くの人々は、伝統的な文書館よりこうした履歴のことを想像しているのではないか。（Ⅰ）

より多くの人々にとって身近なのは、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムといったSNSかもしれない。こうしたサービスのガバナンスは私企業によって集権的に行われ、いつブロックされるかは運用者次第である。また、アップロードしたコンテンツの保存を目的としているものでもない。さらに、いわゆる「フェイクニュース」といった、真正でない情報のオン・ショウ^①となっているとつねに疑われてもいる。それでも人々は、これらのサービスにアップロードしたコンテンツを、日常的に「アーカイブ」として取り扱っているように思われる。（Ⅱ）

さらには、グーグル検索についてはどう考えるべきか？ このサービスは、コンテンツそれ自体を保存するものではないし、その検

索結果はつねに変化している。しかしそれでも、人々はグーグルのサービスを通して大量のウェブ上のコンテンツにアクセスしていて、それらをあたかもアーカイブ化された情報のように利用しているのではないか。つまり、多くの人々はグーグル検索をアーカイブのインターフェイスであるかのように使ってしまったのではないか。ヨーロッパナ、DPLA、ジャパンサーチといった、より公的とされるデジタル資源の横断検索サービスとグーグル検索には、本質的な違いがあると言えるのだろうか。

こうした事例の検討からいえるのは、広く「要件」とされるような特性をすべて十分に満たすような事例を見つけることの難しさであろう。それでも人々はこうしたものを「アーカイブ」として取り扱っている。言い換えれば、「アーカイブ」として扱われることをひとに促すような情報の集まりが存在すると想定して、わたしたちは行動しているとしかいいようがない。つまり、環境としての情報の「集積」が行為する者に与える^(注3)アフォーダンスとしてのアーカイブの問題がここにある。(Ⅲ)

わたしたちはアーカイブなるものを、自らが置かれた政治的・経済的・社会的・文化的文脈のなかに見出す^{みいだ}。そうした個別の文脈のなかで、人々はなんらかの情報の集積を発見し、それを「アーカイブ」として扱い、保存・利用・忘却・破壊などの行為を行ってきた。それでは、どのような歴史的な条件において、情報は「アーカイブ」として扱われることをひとに促してきたのであろうか？

④アーカイブとは何かと問うことは、アーカイブなるものになんらかの「本質」があるとして、その解明ができることを前提している。しかし、以上の考察で示したように、デジタル時代に社会に流通する「アーカイブ」の概念を定義することは困難である。むしろ、多様な条件において情報を「集積」と捉えるというひとの側の認識と、それを「アーカイブ」として扱うことを促す情報のアフォーダンスの相互作用において、アーカイブなるものは立ち現れるものらしい。そうだとすれば、なんらかの本質を前提できないアーカイブについてどのように論じることができるだろうか。(Ⅳ)

^(注4) ミシエル・フーコーは、「ニーチェ・系譜学・歴史」において、本質や真理なるものの形成過程を明らかにしようとする方法論と

して系譜学を提唱した。彼によると、系譜学はものの起源を明らかにしようとするものではない。起源の探求とはものの本質を明らかにしようとする営為であるが、フーコーは系譜学においてそのようなアプローチはとらなかった。むしろ、本質や真理といったものが、いかに歴史的に形成されてきたかを明らかにしようとしたのである。(V)

本書の底流をなす方針でも、デジタル時代のアーカイブの起源は問おうとしていない。そうではなく、「アーカイブ」や「デジタルアーカイブ」の本質とされるようなものがどのような経緯を通じて形成され、また現在まさに形成されつつあるかを考察しようとする。上の議論で仮に^⑥ソテイしてみた、アーカイブの要件といった本質の妥当性を検討するのではなく、それらがどのような歴史的経緯において語られ、どのような効果を持つのかを検討する。さらには、情報が「集積」として捉えられる文脈はどのようなものか？ その「集積」をひとが「アーカイブ」として認識し行動してしまうのはどのようにしてか？ さらにそうしたものとしてのアーカイブと社会の諸関係とはどのようなつながっているのか？ これらが基本的な問いとなる。

(加藤諭・宮本隆史「デジタル時代のアーカイブの諸系譜をたどるために」『デジタル時代のアーカイブ系譜学』より。

出題の都合上、本文中に一部変更した箇所がある)

(注1) アーカイブズ学——公文書などの記録資料類の保存や提供を行うための方法を研究する学問分野。

(注2) ハイパーテクスチュアリティ——ハイパーテキスト(≡リンクの埋め込みによって情報を相互参照できるようにした仕組み)の特性。

(注3) アフォードダンス——ここでは、環境としての情報が人間に与える意味・機能・価値のこと。

(注4) ミシエル・フーコー——一九二六～一九八四年。フランスの哲学者。

問 11 傍線部①に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

① タンネン

- ア 試合に向けてタンネンを重ねる
イ 責任のイッタンを担う
ウ 処分の軽減をタンガンする
エ タンリョな行動を恥じる
オ タンセイ込めて育てた野菜

問 12 傍線部②に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

② オンショウ

- ア ビョウショウにあっても読書に親しむ
イ 権力をショウアクする
ウ 論文の内容にショウゲキを受ける
エ 壁にショウゾウ画を飾る
オ ライバルの存在にショウソウに駆られる

問 13 傍線部㉔に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

㉔
ソ
テ
イ

- | | |
|---|------------------|
| ア | シンソの隔てなく接する |
| イ | 企業を相手取ってソショウを起こす |
| ウ | 成長をソガイする要因 |
| エ | 苦情に対するソチを講じる |
| オ | ソボクな味わいのある陶器 |

問 14 傍線部①「アーカイブなるものの概念」とあるが、「アーカイブ」はどのようなものとして捉えられてきたのか。その説明として適当な

ものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア アーカイブズ学においては、個人や組織が継続的に利用することを前提に作成されたものとして、デジタルアーカイブにおいては、複数のファイルをまとめてシステムやネットワーク上に公開しているものとして捉えられてきた。

イ アーカイブズ学においては、文書の収集や保存にとどまらず、保存機関としての意味を持つものであり、デジタルアーカイブにおいては、ウェブ上の情報のコピーを保存し、検索可能な形にしたものとして捉えられてきた。

ウ アーカイブズ学においては、何を保存するべきかという価値判断のもと、体系的に記録を編成し保存されたものであり、デジタルアーカイブにおいては、利用しやすさや永続性が優先された情報の集積として捉えられてきた。

エ アーカイブズ学においては、権力側の意図のもと、歴史的・社会的に価値あるものを編成したものであり、デジタルアーカイブにおいては、我々の日常生活を支えるものとして市民権を得たものとして捉えられてきた。

オ アーカイブズ学においては、規範や制度がいかに歴史的に形成されてきたかを明らかにしようとするものであり、デジタルアーカイブにおいては、作ろうと意図しないでできてしまった情報の集合体として捉えられてきた。

問 15 空欄

X

 ・

Y

 に入る語句の組み合わせとして適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア	X	敵視	Y	否定
イ	X	可視化	Y	追認
ウ	X	評価	Y	無効化
エ	X	形骸化	Y	正当化
オ	X	自明視	Y	再生産

問 16 傍線部②「情報が集積するとはどのような意味なのか？」とあるが、この問いについて筆者はどのように答えているか。その説明として

適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア アナログ時代には、情報が集積するほど検索や共有に手間がかかるものだったが、デジタル時代では、ファイルとして保存され、検索や共有が容易に行えるものとなっている。

イ アナログ時代には、本や書類が収蔵庫に積み重なっている状態としてイメージされたが、デジタル時代では、ネットワーク上のまとまりのない情報群としてイメージされている。

ウ アナログ時代には、情報は物理的な媒体に依存し、損傷や劣化のリスクを有していたが、デジタル時代では、簡単にバックアップでき、集積の保存が永続的に可能である。

エ アナログ時代には、すべてのテキストが参照関係の網の目になかに位置づけられることを意味したが、デジタル時代では、無秩序に積み重なった情報の集合体を意味している。

オ アナログ時代には、物理的に存在する情報の蓄積でそれぞれが一定の意図をもって保存されたが、デジタル時代では、接続しうる環境に潜在的に存在するデータ情報の集合である。

問17 傍線部③「デジタルアーカイブの『要件』とあるが、これに関する説明として適当でないものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア デジタルアーカイブの「要件」の一つである「アクセシビリティ」に関して、コンテンツ自体を保存しない検索エンジンが、アーカイブにアクセスするための接点であるかのように多くの人々に利用されている。

イ デジタルアーカイブの「要件」の一つである「ハイパーテキストリアリティ」や「継続性」に関して、デジタルアーカイブではリアルタイムの協働管理を目的として記録が保持され、過去の変更履歴を確認できる。

ウ デジタルアーカイブの「要件」の一つである「信頼性」に関して、知的財産権が発生しない情報のコピーが検索可能な状態で公開されている場合、関連情報は不正確で、アーカイブの要件を満たしていない。

エ デジタルアーカイブの「要件」の一つである「双方向性」や「信頼性」に関して、SNSは双方向コミュニケーションを可能にしたが、「フェイクニュース」や誹謗中傷などの不確かな情報も拡散されやすい。

オ デジタルアーカイブの「要件」の一つである「ネットワーク性」に関して、SNSの利用者が増えるほど多くの人との交流が可能になり、そこにアップロードされたコンテンツがアーカイブとして日常的に利用されている。

問 18 傍線部④「アーカイブとは何か」とあるが、「アーカイブ」についての筆者の見解の説明として適当でないものを、ア～オの中から選ん

で答えなさい。

ア アーカイブの要件とされるような特性をすべて十分に満たす事例はなかなかないが、人々は情報の集まりが存在することを想定して行動し、それらを「アーカイブ」として扱っている。

イ アーカイブとは、環境としての情報の「集積」が利用者に与える機能であり、人々が情報を主体的に引き出そうとする局面で「アーカイブ」としての価値が発揮される。

ウ アーカイブなるものは、人々が情報を集積と認識し、「アーカイブ」として扱うときに、情報機能との相互作用において意味のある「アーカイブ」として立ち現れる。

エ アーカイブなるものは、人々が置かれた政治的・経済的・社会的・文化的文脈のなかで発見した情報の集積であり、保存・利用・忘却・破壊などの行為をしてきた。

オ アーカイブとは何かと問うためには、その「本質」を説明する必要があるが、アーカイブの本質を前提することは難しく、したがってアーカイブとは何かと問うことも難しい。

問 19 次の一文は、本文中の（Ⅰ）～（Ⅴ）のうちのどの部分に付け加えることができるか。適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

しかも、その「アーカイブ」なるものは、これらの事例から明らかのように、異種混交的なものとしてわたしたちの目の前に立ち現れている。

ア（Ⅰ） イ（Ⅱ） ウ（Ⅲ） エ（Ⅳ） オ（Ⅴ）

問 20 筆者の主張として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア デジタル時代の「アーカイブ」の概念を定義することは困難であるが、ミシエル・フーコーが行ったように、アーカイブの起源を明らかにしようすることが重要である。

イ ネットワーク化された日常生活において、さまざまな場面で見られる情報の「集積」を、それらが作られた意図を無視して「アーカイブ」として扱ってしまうことには問題がある。

ウ アーカイブなるものの概念を定義しようとする議論に共通するのは、記録や情報の編成や構築の前提となる規範や制度の正当性を担保しようとする姿勢である。

エ デジタルアーカイブの「要件」とされるような特性を一面的にでも有しているものを、人々が「アーカイブ」として認識し行動してしまうのはなぜかを明らかにしていく必要がある。

オ アーカイブの本質について検討するのではなく、アーカイブの本質とされるようなものがいかに歴史的に形成され、社会とかわってきたかを考察することが重要である。

第三問 次の設問に答えなさい。

問 21 次の文の傍線部の四字熟語の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

君の言動は自家撞着^{じかどうちやく}に陥っているよ。とても信用することができないな。

- ア ありもしないことを想像して、それを事実だと思い込むこと。
- イ 同じ人物の言動が前と後とで矛盾していること。
- ウ 言っていることと実際の行動とが食い違っ一致しないこと。
- エ 自分の失敗の責任を他者に押し付け、言い訳に終始すること。
- オ 力量もわきまえず、自分を大きく見せようと尊大に振る舞うこと。

問 22 次の文の傍線部の故事成語の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

社会のデジタル化は人々を巻き込んで、まさに燎原^{りやうげん}の火のごとく世界中に広がった。

ア はじめは伸び悩むが、次第に勢力を広げること。

イ 強大になり手が付けられなくなること。

ウ ごく短い時間で物事が進んでいくこと。

エ すさまじい勢いで急速に広がっていくこと。

オ とめるのが難しいほど順調であること。

問 23 次の文の傍線部の語句の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

企業や自治体だけでなく、最近は病院や学校においてもホワイトハッカーのニーズが高まっている。

- ア 顧客からの共感や信頼を把握し、そのブランドの価値を高めていくための方法を立案する人。
- イ 顧客・株主・地域社会などと良好な関係を構築し、その維持向上のための活動をする人。
- ウ 法的な許可のもと、ネットワークを攻撃する側の視点で、防御をするための対策を行う人。
- エ 契約を結ぶにあたり、その内容が法律に合っているかを専門的な知識をもとに調査する人。
- オ 意図通りにネットワークが運用されるよう、システムの全体要件を決め、構築や管理をする人。

問 24 次の文の空欄に当てはまる語を、ア～オの中から選んで答えなさい。

一定期間の定額料金を支払うことで、期間内に商品やサービスを利用する権利を得るビジネスモデルに がある。

ア シェアリングエコノミー

イ リカーリング

ウ オンラインサービス

エ サブスクリプション

オ リース

問 25 次の文の空欄に当てはまる語を、ア～オの中から選んで答えなさい。

経験や勘に頼るのではなく、で顧客のニーズを把握して、今後の商品開発に生かす。

ア データマネジメント

イ データドリブン

ウ データコンプライアンス

エ データセキュリティ

オ データマチュリティ

